

Q4：朝の一斉読書を充実させるには、どのようにしたらよいですか？

A：朝の読書は、学級から始めることが多いのですが、学年や全校体制で取り組めるように、次のようなことを心掛けたいものです。

(1) 職員の共通理解を得ましょう。

学年会や職員会で、ねらい・活動内容・時間帯などを話し合い、協力体制を作ります。

(2) いろいろな本の紹介をしましょう。

読み聞かせやブックトークをしたり、お薦めメッセージを配布したりして、児童生徒が読書に興味関心をもつ本を紹介します。

(3) 身近に本のある読書環境を整えましょう。

自分で本を選ぶことが原則ですが、学級文庫を用意したり、公共図書館からの団体貸し出しを利用したりして、いつも身近に本のある環境を作るようにします。

本の紹介や読書環境については、詳細をご覧ください。

小学校詳細

中学校詳

Q 4 : 朝の一斉読書を充実させるには、どのようにしたらよいですか。
(小学校)

- 1 職員の共通理解を得るために
例のような実施計画案を年度の始めに提案します。

平成〇年度 朝の一斉読書実施計画案

1 ねらい

- ・ 読書の楽しさを知らせ、読書生活の習慣化をはかるとともに、心豊かな児童の育成をめざす。

2 実施期間

- ・ 10月14日(火)から24日(金)
- ・ 8:30~8:45の15分間

3 実施方法

- ・ 時間になったら、読みたい本を持って席に着く。
- ・ 自分の席で静かに読む。
- ・ たが読めなければ読後の感想は書かぬ。

○ 実施期間・実施時間

初めは、読書週間や月1回の実施など無理のない範囲で提案してみましよう。定着してきたら、月2回や週1回と回数を増やして提案します。

○ 実施方法

ルールはあまり細かくせず、基本的なものだけにします。

- 2 読書環境を整えるために

図書館担当としては、読書環境を整えることが大切な仕事です。児童の身近にいつも読みたい本があるよう工夫します。

(1) 学級文庫をつくる

新たに購入することが難しい場合は、図書館の図書の中から児童の実態に合った図書を担任に選んでもらい、配当します。できれば、学級の人数分以上、図書があった方がよいでしょう。

また、2学級なら前期と後期で、3学級なら学期ごとで学級文庫をローテーションしてみましよう。いろいろな図書に出合うことで、児童の読書の幅が広がります。

(2) 団体貸し出しを利用する

公共図書館から、まとまった数の本を借りることができます。

- 3 読書に興味を持たせるために



実際に朝の一斉読書を始めてみると、問題点が出てくる場合があります。例えば、まだ字が読めない、自分で本を探せない、活動がマンネリ化してくる、などです。そんなときには読書に興味をもち、その興味を継続できるような働きかけが必要です。

《学級での読み聞かせ》

(1) 読み聞かせをしてみましょう

ア 絵が分かりやすく、ストーリーが明快な絵本『ぶたのたね』（佐々木マキ／文・絵，ポプラ社）とても足の遅いオオカミがぶたをつかまえようとはんばる姿が何ともかわいいお話です。



《お薦めの本》

『せんたくかあちゃん』（さとうわきこ／文・絵，福音館書店）雷様までジャブジャブ洗ってしまった母ちゃんが、なにもなくなった雷様の顔にペンで顔を描いてしまうというびっくりするお話です。

イ 学習内容に関連する本や、四季折々の動植物の本

『やぶかのはなし』（栗原毅／文・長新太／絵，福音館書店）ふだん見慣れた蚊にも、こんなドラマがあったのかという新たな驚きをもち、蚊への興味が高まるお話です。

『あめんぼがとんだ』（高家博成／文，横内襄／絵，新日本出版社）児童は、雨上がりの水たまりやプールなどでアメンボを見つけます。そんな時にお薦めです。

ウ 子どもにじっくり考えさせる本

『100万回生きたねこ』（佐野洋子／文・絵，講談社）主人公の猫は、初めて好きになった相手を失ったとき、自分も後を追うように死んでしまいます。児童と一緒に、気持ちを共有したい本です。

『ゆずちゃん』（肥田美代子／文・石倉欣二／絵，ポプラ社）阪神・淡路大震災で亡くなったゆずちゃんのお話です。ちょっと「いけず」なクラスメイトの語る関西弁が、児童の耳と心にすっと馴染みます。

(2) ブックトークをしてみましょう

自分でテーマを設定し、テーマに沿った本を選んで紹介するものです。

ア 不思議・秘密・旅など、楽しい内容のもの

イ 虫・環境・水など、学習内容に関連するもの

ウ 友達・家族・生命など，考えを深める内容のもの

※ 詳しく知りたい方は，ブックトークについてのページをご覧ください。

(3) いろいろな人に依頼してみましょう

公共図書館や地域の読書サークルなどに依頼して，読み聞かせやブックトークをしていただくこともできます。保護者の方に参加していただく方法もあります。これらの場合には，実施計画案の中に時期，依頼先，対象学年等，活動内容を位置づけておくことが大切です。

また，手軽にできる方法としては，担任が交代して読み聞かせやブックトークを行うこともできます。1組の担任が2組で，2組の担任が1組でといったように校内の職員で行うのです。

Q4:朝の一斉読書を充実させるには、どのようにしたらよいですか？
(中学校)

まず、朝の読書の時間を確保するために、学年会や職員会で提案しましょう。年度始めの年間計画を立てる時に、例えば総合的な学習の時間を読書タイムとし、その前後の週を朝の読書週間にしたり、読書月間としたりすることからスタートできると、職員の協力体制も得られやすいでしょう。また、生徒に読書への興味・関心をもたせるために、いろいろな方法で本の紹介をしたいものです。学年集会でブックトークをしたり、職員の読書体験やお薦め図書を紹介したメッセージを配布したり、図書委員会のお薦め図書紹介やPRポスター作りをしたりすると効果的です。図書委員会で朝の読書の簡単なルール作りをして学級へ伝えることもよいでしょう。

さらに、身近な所に本を置くという点で、学級文庫があると助かります。もしなければ、職員や図書委員で図書室から選んだ本を特別貸し出しとして、臨時の学級文庫にしてみるのもよいでしょう。

マンネリ化を防ぐためには、絵本の読み聞かせや自分が読んでいる本のスピーチをしたり読書ゆうびんを書いたりするなど、いろいろな変化をつけてみてはいかがでしょうか。

1 朝の読書を充実させるポイント

いろいろな本の紹介をすることが大切です。おもしろい本が見つければ、生徒は進んで読書します。対象とする本は、絵本や小学生向けの本であってもかまいません。生徒の実態に合わせて、読んでみようかなという気にさせる本をたくさん紹介したいものです。ただし、せっかく学校で読むのですから、漫画や雑誌やゲーム本などはやめるようにしましょう。

(1) ブックトーク

テーマを決めて本を選び、お話をしながら紹介していく方法ですが、朝の読書への興味関心をもたせるという観点から、職員が読ませたいと思う本を選んで、「こんな本があるよ」と気楽に話してみるのがよいかと思われれます。これまでにブックトークをして生徒に人気のあったものを紹介します。

『にいちちゃん、ぼく反省しきれません』（柚木真理／作 ポプラ社）

短い話を2つぐらい取り上げて、読み聞かせをするとおもしろい。落

語のおちのような話の展開に思わず笑いが起こる。読書が苦手な生徒でも読みやすい。

『バッテリー』シリーズ (あさのあつこ／作 教育画劇)

主人公の少年たちの気持ちが、中学生男子の共感を呼ぶ。特にファンタジーの世界に入りづらい生徒は、現実的な人間関係のおもしろさに引き込まれ、1作目を読むとシリーズを読破する生徒も多い。

『ハッピーバースデー』 (青木和雄／作 金の星社)

「おまえなんか、生まれてこなきゃよかったんだよな」という衝撃的な言葉に印象付けられ、同情の気持ちから一気に読み込んでいく話である。女子に人気がある。

『白狐魔記』シリーズ (斉藤洋／ 偕成社)

歴史やファンタジーが苦手な生徒でも物語の世界に入りやすく、人間とはどんな生き物なのかを狐と同じ視点で考えさせられる。

『ハラスよ ありがとう』 (中野孝次／著 ポプラ社)

表紙の犬の絵にまず興味をもち、読んだあと犬を飼ったような気持ちになれるという感想に惹かれ、親近感をもって男女共に受け入れられる。

『夏の庭』 (湯本香樹実／作 徳間書店)

少年たちの心情に、感情移入できる話の内容と共に読みやすさが好評である。

(2) 職員の読書メッセージ

職員の読書体験やお薦め図書の紹介などは、生徒がとても影響を受けますし、喜んで読むようです。職員が児童図書に関心をもつようになり、読書タイムの雰囲気作りにも役立ちます。

(3) 図書委員のお薦めメッセージ

図書委員が読んでいる本やお薦めの本をまとめて、生徒に配布します。職員のメッセージ同様、図書委員の意欲を高めたり、友達同士の刺激にもなったりします。

2 図書委員会で考える朝の読書のルール例

「本を持って自分の席に着く」「しゃべらない」と
と
が基本だと言えます。話し合っ
て決めたことを PR ポ
ス
ターなどにまとめて、教室掲
示するとよいでしょう。



朝

の読書のねらいはいろいろあるでしょうが、
一番効果的

なのは、教室にいる先生が「本を読む姿を見
せる」こと

でしょう。廊下の見回りよりも一冊の本を片
手に教室に

いるようにしたいものです。

《PRポスター

の例》

3 学級文庫の例

図書の購入予算もあるので、一度に揃えることは難
しいかもしれません。しかし、身近に図書があること
が読書意欲を高めるために大切なことです。できれば、
学級の人数以上の本を揃えましょう。どんな本を選ぶ
かは、職員会などで提案して、読ませたい本、教科に
関わる本、名作、名古屋市児童図書選定協議会で選ば
れたものなどを入れていくとよいでしょう。つまり、
お薦めの図書文庫になって



いくわけです。

《学級文庫》

4 マンネリ化を防ぐ工夫のあれこれ

朝の読書の続け方には、年間を通したものや期間を決めたもの、週間課程
で組み込んだものなどあります。長期に継続する場合には、どうしてもマ
ンネリ化して困ることがあります。そんな時は、思い切っているろいろな変化
をつけてみることをお薦めします。

- (1) 読み聞かせをする。(絵本でも物語を少しずつでも、職員でも生徒でも)
- (2) 読んでいる本についてスピーチなどをして紹介し合う。
- (3) 読んでいる本を『読書ゆうびん』などに書いて紹介し合う。

Q5：図書館まつりをするには、どのようにしたらよいですか？

A： 図書館まつりとは、図書室・絵本室を利用して、児童が読書に関する様々な催しを体験することを通して、本を読む楽しさや、調べる楽しさを知らせていくものです。図書館まつりの催し物としては、紙芝居や読み聞かせなど手軽に取り組めるものや、パズルゲームや国語辞典早引き大会など準備が必要なものもあります。

図書館行事として計画的に取り組んでいくには、図書館にかかわる職員だけでなく、より多くの職員の理解と協力を得るとよいでしょう。

図書館まつりの計画例や催し物の内容については、詳細をご覧ください。

詳細

Q5：図書館まつりをするには、どのようにしたらよいですか？

1 図書館まつりの計画

図書館まつりの計画を学校図書館運営計画に盛り込むとよいでしょう。実施する時期が近くなったら図書館だよりで特集を組み、「図書館まつり」の概要を職員や児童に知らせます。

その場限りの催し物のみにとらわれることなく、図書委員会の児童とともに、無理なく取り組める催しを計画することが、図書館まつりを行事として継続させていくためのポイントにもなります。

図書館まつりの計画例

時期： 読書週間を中心に1週間から2週間。ただし、学校行事を優先して重ならないようにする。

時間： 2時間目と3時間目の間の休み時間。

場所： 図書室を利用する。絵本室がある場合は、高学年は図書室，低学年は絵本室というように分けると活動がよりスムーズにできる。

図書室のみの場合は、催し物の内容によって参加できる学年を設定する。

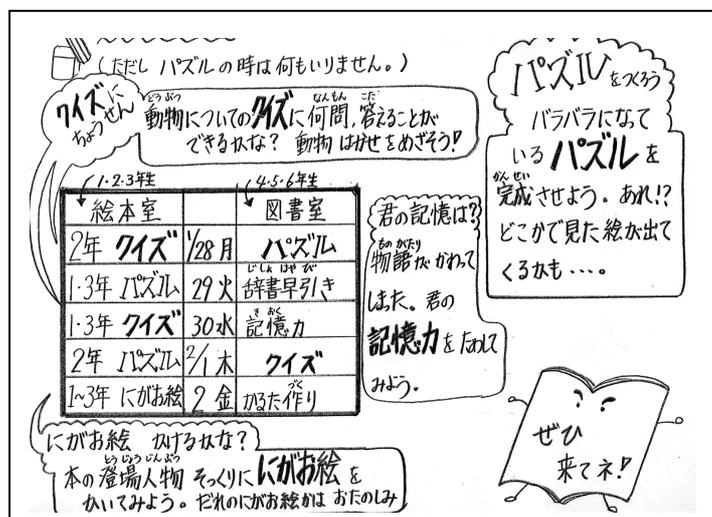
2 催し物の内容や準備

多くの児童が参加できるようにするために、いくつかの催し物を準備するとよいでしょう。

また、曜日によって内容を変えたり、参加学年を決めたりします。

3 催し物の例

催し物はそれぞれの学校の特色や、図書委員会の活動によって異なりますが、次のようなものがあります。



《図書館まつりを集めた図書館だよりの一部》

読み聞かせ・紙芝居・パズルゲーム・似顔絵大会・クイズに挑戦・記憶力に挑戦・カルタ作り・国語辞典早引き大会など

最初の年は、催し物によって準備が必要です。しかし、継続していくうちに、準備したものをストックしておけば、毎年の準備に困ることはありません。

ん。このような催し物の準備については、委員会の時間を活用して、図書委員会の児童と話し合いながら決めていきます。具体的な内容や準備について紹介します。

パズルゲーム

【内容】

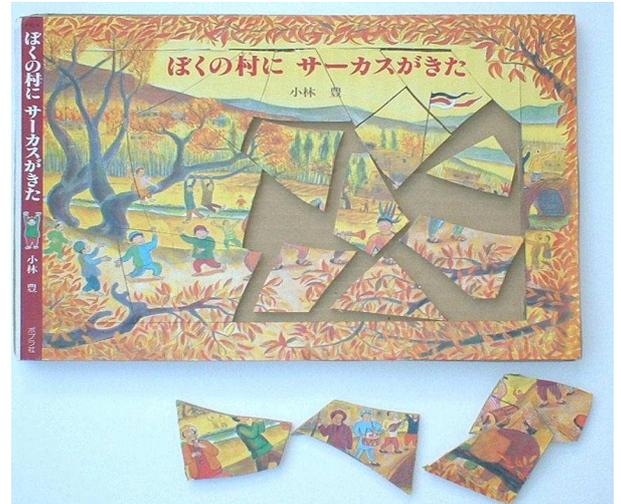
手作りのパズルを時間内に完成させることを競います。パズルができあがっていくうちに、絵本の美しい表紙が表れ、物語の世界へ誘います。

【準備】

- ① パズルを作る絵本の表紙カバーと同じ大きさの段ボールを2枚作ります。
- ② 1枚の段ボールに表紙カバーをはります。後からピースに切り分けたときに、めくれないように周囲だけでなく全体にしつかりとボンドで貼っておきます。
- ③ 表紙カバーを貼った段ボールがよく乾いたら、周囲2cm位を残してカッターナイフで中を切り抜きます（パズルの枠部分）。切り抜いた部分を細かく切ります（パズルのピース部分）。
- ④ 初めに用意したもう1枚の段ボールに、パズルの枠部分をはります。こうして台ができあがります。

【ポイント】

- 低学年・高学年ごとにピースの数をそろえておく。
- ピース数は、20から30ピースぐらいがよい。
- できあがる時間を低学年は7分、高学年は5分ぐらいとする。
- パズルの保存は、ひとつずつ台ごと袋に入れておくと、ピースが混ざることなく次に使うとき困らない。



《表紙カバーを利用した手作りパズル》

国語辞典早引き大会

【内容】

国語辞典の使い方を学習する4年生以上が参加します。制限時間内にいくつかの言葉の意味を正しく調べられるかを競います。

【準備】

出題内容を学年ごとに変えます。意味調べができるように欄を作ったプリントを用意しておきます。制限時間を決めて行うとより多くの児童が参加できます。

【ポイント】

- その学年が学習する国語の単元から意味調べにふさわしい言葉を選ぶ。
- 10問程度出題する。

そ の 他

催し物ではありませんが、表紙を活用したしおりを作り、図書館まつりに参加した記念に、児童へ渡すこともあります。手にしたしおりをもとに、本を探し、次への読書活動へと広げていくことができます。

【準備】

- ① 名刺の大きさに色画用紙を切って台紙にします。
- ② 台紙に収まる大きさに表紙カバーの一部を切り取って貼ります。
- ③ 乾いたらパウチフィルムに挟みパウチをします。